

# JCCP NEWS

Vol.08 Iss.01



南スーダン  
啓発活動に参加する子どもたち。給食の前に手洗いをする。

## CONTENTS

P.2-3 ... 特集『ソマリア』

P.4-5 ... 南スーダン：子どもと若者への啓発・職業訓練事業

P.6 ... ケニア：IPSTC：PKOセンター支援第2フェーズが始動／首都ナイロビのマザレ・スラムでコミュニティ平和構築事業が開始  
トピックス：第21回通常総会を開催

P.7 ... ご支援へのお礼／JCCPのNPO認証10周年のご挨拶／ご支援のお願い

P.8 ... JCCPの事業一覧／新任スタッフからのご挨拶／JCCPカレンダー／編集後記



## 特集：『ソマリア』

### 2012年8月の政権移行と治安情勢

#### ◆ 暫定政府から統一政府へ

ソマリアでは、2012年8月に暫定政府から統一政府への移行を目指すことが合意されています。2012年に入り、隣国ケニアやアフリカ連合によるソマリアへの軍事攻勢により、反政府勢力アル・シャバブがそれまでの主戦場だった首都モガディシオ周辺からプントランドに北上するなど、治安情勢も大きく変化しています。

長年にわたり無政府状態だったソマリアでは、昨年から東アフリカ全体で発生した干ばつの際に、本来政府が行うべき灌漑設備の整備や、被災者支援を行ううえで必要な安全の確保が行われていなかったため、周辺国に比べて大きな被害に発展しました。JCCPは、今年2月から本格的にソマリア北部プントランドに位置するボサソの国内避難民キャンプにおいて、干ばつ被災者支援を開始しました。



### ソマリア北部での干ばつ被災者・女性被害者への支援

ソマリアでは2011年7月から9月にかけて南部の6地域に対し、国連の飢餓宣言が出されたほか、同時期に南部で激化した戦闘により難民・国内避難民が増加しています。ボサソでは2011年の1年間に国内避難民が6割近くも急増しており、支援が急務となっています。

#### ◆ ボサソの避難キャンプ

ボサソはプントランドの北部に位置し、ソマリア中南部での干ばつや紛争を逃れた国内避難民約8万人が35箇所のキャンプで暮らしています。国内避難民は干ばつ被害で避難を余儀なくされ、体力や財力の不足、武装勢力の妨害などで国境を超えることすらできない状態が続いています。支援活動が必ずしも十分に行き届かないソマリア国内で、劣悪な生活環境におかれ健康を損ない、生活の極端な変化により精神的な苦痛を受ける人も少なくありません。

2011年中にボサソに流入した国内避難民のうち、約40%が干ばつや戦闘から逃れたソマリア南部出身者で、その約半数が18歳以下の子どもです。避難する道中で武装勢力に襲撃されたり性的被害に遭った事例も多数報告されており、被害者は周囲の理解や適切な支援を得られずコミュニティで孤立し自殺を考えたり、治療を受けられず結果として身体障害を負う事例もあります。また、2011年の干ばつが主な原因で急増した新規の避難民と、20年来ボサソのキャンプに定住する旧避難民との間で、限られた資源をめぐる略奪・

強盗・対立も多数報告されています。公共施設（トイレや水供給施設）などへのアクセスをめぐる争いが発生しているほか、粗末なテントで暮らす避難民が多いことから夜間に女性や子どもに対する性暴力事件も深刻なほか、干ばつ被災による経済不安へのストレスから家庭内暴力も頻発しています。伝統的な慣習から、外部の人による家庭問題に対する介入や支援を嫌うソマリア社会では、家長である男性の理解が得られない限り必要な支援が提供できません。干渉を嫌がる夫・父親が、被害女性や子どもが病院で治療を受けることを拒否



Dignity Kit(尊厳回復キット)の内容を確認する石井由希子JCCP在ケニア・ソマリア代表。手前にあるのは女性用の布地。



ボサソの街並み

し続けたことによって被害女性が失明した事例もありました。

被害女性自らが問題を把握し、支援へのアクセスをできる仕組みを整えない限り、1対1のカウンセリングも困難です。

JCCPは、性暴力防止や住民問題への理解を呼びかけ、防犯に関する意識を向上させ、コミュニティ内部の問題を抱えた被害者や女性が、自発的に支援にアクセス出来る仕組みを作り、住民自身が問題解決の能力を高めるための支援を開始しました。

### ◆ 3つの活動分野

JCCPのソマリアでの干ばつ被災者支援事業では、主に3つの分野で活動を行います。

第一に、国内避難民キャンプの被災者のうち、避難時に深刻な性暴力被害を受けたり精神的なトラウマを負ったりした女性500人の緊急的な生活

ニーズに対応するため、衛生改善・防犯・栄養改善に有益な物資を配布します。対象者は特定の犯罪の被害者だと分からないように、一般的な配布物資も併せて配布します。物資は、Dignity Kit(尊厳回復キット)と名付けられており、衛生改善や犯罪防止、栄養補給につながるような水、食料、衣類、生理用品、衛生用品がセットになって配布されます。

第二に、避難民キャンプの住民1000人を対象とした衛生・防犯・暴力回避に関する啓発教育を実施します。被害女性や子どもに対する支援だけを行っても、支援が終わったあとに周辺の男性家族や大人が問題に対応するためのセーフティーネットが欠けたままになります。啓発教育により、犯罪や暴力についての家族や住民全体の認識を高め、問題に気づいた際に必要なアクションを取れるようにすることを目的としています。

第三に、各避難民キャンプにある避難住民が抱えている問題を相談できる窓口の担当者(フォーカルポイント)に対し、性暴力対策や住民問題に対応するための心のケア、啓発、問題解決スキル向上のための研修を行います。フォーカルポイントたちはすべて女性で、彼女たち自身も、キャンプに住む避難民で、イタリアのNGOのGRTによって選出されました。フォーカルポイントたちは、外部からはアクセスしにくい犯罪や暴力の被害者が相談しやすい立場である一方、専門的な研修を受けたわけではないので、被害者への対応に限界がありました。今後もフォーカルポイントたちの能力を強化し、JCCPはボサソの避難民キャンプで支援を実施していきます。

\*この事業は、JCCP 会員や寄付者の皆様からのご支援と、特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム (JPF) からの助成により実施しています。

## 武装勢力や海賊に参加する子ども・若者たちの社会復帰支援

ソマリアで2011年8月にYouth at Risk事業がスタートしてから約8ヶ月が経過しました。Youth at Risk事業は、武装勢力、海賊やギャングなどの犯罪集団に取り込まれて加害者や犯罪予備軍となっている若者を対象に、更生や犯罪集団からの脱退を支援する活動です。UNDP(国連開発計画)、UNICEF(国連児童基金)、ILO(国際労働機関)と共同で行われています。

具体的には、若者の犯罪への参加が減るよう、対象となる若者を登録し、聞き取りから得た情報により武装勢力の分析を行うと同時に、登録された若者たちに対して再教育や職業訓練を行っています。JCCPは、登録データベース開発、若者を受け入れるコミュニティや専門家に対する研修の策定や、事業全体の統括を将来的に担うため創設された現

地組織「紛争と暴力予防の監視団」に対する能力強化を担当しています。

また、「紛争と暴力予防の監視団」の能力強化につながるよう、現在、JCCPは住民に対する訓練マニュアルの見直しを行い、ソマリアの伝統的な文化背景や問題解決の仕組みを取り入れより現地の状況に即した内容となるように改善を図っています。

### ◆ 女性と若者への啓発教育活動

ソマリア北部ソマリランドの町ブラオでは、2012年2月よりあらたに26名の女性メンバーが登録され、熱心に市民教育や平和構築のクラスを受講しています。若者が所属するコミュニティ全体に対しても若者や女性に対して公平な扱いを行うための啓発活動を行い、住民全体が若者や女性に対する接し方を改善するための試みが行われています。

### ◆ 犯罪回避の仕組みづくり

ソマリアの首都モガディシオでは、パソコンやデータベースを導入して、武装勢力に参加する子ども・若者の登録を行うだけでなく、犯罪や暴力を伴う事件情報をタイムリーに携帯電話のショートメッセージサービス(SMS)で配信するなどの犯罪回避の仕組みづくりを行っています。

\*この事業は、JCCP 会員や寄付者の皆様からのご支援と、国連開発計画(UNDP)からの委託により実施しています。



## SOUTH SUDAN 南スーダン

### 子どもと若者への啓発・職業訓練事業

南スーダンは、20年以上続いた内戦が終わり、2011年7月スーダンから独立しました。しかし、首都ジュバでは内戦によって近隣州から避難してきた若者が急増しており、身を寄せる場所のない彼らは同郷の友人と共に路上で生活する状態が続いています。このような路上生活をする若者は警察や周辺コミュニティに受け入れられにくいいため、教育および職業への機会が少なく、窃盗や売春等により生きるための食料やお金を得る者が多いのが現状です。幼少から路上生活をしている若者は、孤独や空腹からくるストレスを発散するため、薬物(接着剤)の吸引や暴力を常習としています。また生きるために犯罪を繰り返しており、人間性・社会性が大きく失われています。

JCCPは、ジュバ市内で路上生活をする子ども・若者グループに対し、犯罪の回避、薬物の乱用防止についてコミュニティモビライザーと呼ばれる啓発を担当する現地職員が啓発活動を行っています。また、ホテルやレストランなどで就業可能となる職業技術を訓練し、生活再建能力を育成するため、路上生活者または困難な生活環境にある子ども・若者を対象に職業訓練を行い、調理補助・給仕の技術を講義・実習および実地訓練を通して学ぶ機会を提供しています。2011年12月から開始した新たな事業では、これらの啓発活動や職業訓練を現地のNGOが自ら行っているように訓練するのが最大の目標です。

今回は、とある日の啓発と職業訓練の様子をお伝えします。



### 子どもの健康を薬物から守る

啓発活動は、始まりの合図やチャイムなどはないので、コミュニティモビライザーが町を歩きながら路上生活をする子どもたちに声をかけて参加者を集めることから始まります。ある日の啓発参加者は約30名。啓発会場として借りているタン屋根で作ったサッカー観戦用の建物まで歩いてきます。セッションに参加する子どもたちの何名かは薬物として吸引している接着剤を入れたペットボトルを片手にやってきますが、ペットボトルは啓発セッションが始まる前に没収します。

この日の子どもたちへの啓発セッションのテーマは、「薬物吸引の危険性、そして誘いの断り方」に

ついてです。薬物の吸引が子どもの身体にどれだけ危険であるかを示し、仲間からの薬物の誘いに対してどのように断るかを学びます。

セッションの最初は、コミュニティモビライザーのアブラハムの説明から始まりました。ナイル川の両岸に架かった橋と川の中に大きな口を開けて獲物が落ちてくるのを待っているワニのイラストを子どもたちに見せます。

「橋とワニの間にはネットが張られていますが、橋は今にも壊れそうな状態です。今、子どもたちはこの橋を渡らなければいけません。気をつけて渡らないと落ちてワニに食べられてしまいます。しかし、万が一、落ちたとしてもネットがあればワニ

には食べられずに助けることができます。」

このイラストでは、橋(子どもたちの困難な生活環境)、ワニ(薬物)、橋とワニの間にかけられたネット(知識・薬物吸引の誘いを断る勇気・仲間やコミュニティからの助け)などの例を挙げながら、薬物の怖さを他の子どもたちに伝えたり、薬物を吸引している友達にやめるように進言したり、また、誘われたら断るようにと説明します。アブラハムは親しみやすいように笑いながら説明しますが目は真剣です。彼は、薬物吸引を止めることを心から願って活動をしています。

次に、コミュニティモビライザーと参加者による仲間から接着剤の吸引を勧められた場合にどうやっ



橋やワニの例を用いて説明するアブラハム。親しみやすく笑っても目は真剣。



薬物吸引の誘いの断り方を寸劇形式で説明する。

て断るかについて寸劇が始まります。コミュニティモビライザーのアブラハムが接着剤の吸引を友達に勧める役を演じます。友達役は参加者の一人でありリーダー格の少年アケッチです。彼は、2週間前にJCCPが行った啓発活動に参加し、接着剤の吸引を止めたばかりです。アブラハムは、ペットボトルから接着剤を吸引する真似をして、酔っぱらいのおじさんのようにフラフラ歩きます。その光景がおかしくて、見ている子どもたちは大歓声を上

げます。アブラハムはアケッチをしつこく誘います。アケッチも最初は笑いながら断っていましたが、繰り返し誘ってくるアブラハムに対して真剣に断り、声も高まってきました。二人ともなかなかの演技で、見ている子どもたちも声援を送りながらも一生懸命見入っています。やがて、寸劇はアブラハムが逆にアケッチに説得され、接着剤が入ったペットボトルを捨てるということで終わり、子供たちからも拍手が湧きました。

寸劇を見ていた子供たちの多くは、接着剤の吸引がいけないということ、それが身体に悪影響を及ぼすことは頭では理解していますが、路上生活での不安や孤独、空腹などを紛らわすために薬物に手を出してしまう彼らにとって、実行に移すのはなかなか難しいのが現実です。このような活動を根気よく繰り返すことによっていつか彼らが薬物吸引をやめるよう促しますが、同時に必要なのは生活を立て直す支援です。

## 自立のための職業訓練

JCCPは、ジュバ市内のホテルの一角を借りて、一度も働いた経験のない若者を対象に職業訓練を行っています。この日の実習は、パンケーキを焼く練習です。調理講師のマイクはユーモアを交えながら、訓練生に的確に指示を出し、訓練生もマイクの話をよく聞いています。訓練生たちはなかなかパンケーキをひっくり返せないようで、マイクに「何をびくついているの。ささっとめくれば手は熱くならない。早くしないと焦げてしまうぞ。」とせかさされながら、ひたむきにパンケーキを焼いています。きれいにできる子、ぐしゃっとなってしまう子、様々です。約40度の炎天下で木炭を燃やしたグリルで作業するため、みんなものすごい汗をかきながら、パンケーキを焼く練習に打ち込んでいます。そのほかにも野菜やフルーツの切り方、魚の調理の仕方、

料理の盛りつけ方や色々なレシピを覚えます。

訓練生は、それぞれ前菜担当、炒めもの担当、パスタ担当、果物担当に分かれ、調理講師のマイクが全体を仕切って訓練生に次々に指示を出しながら、全体を見回して、問題がないかを観察します。

3月中旬に、このプロジェクトの助成機関でもある国際協力機構（JICA）の日本人職員が調理実習を見学に訪問された際に試食会が行われ、訓練生はテーブルセットから給仕まですべてを行いました。少し緊張気味でしたが、それぞれが担当した料理の調理方法を来賓に対してきちんと発表できました。試食した来賓から「味付けが上手」「盛り付けがきれい」などの感想をもらい、嬉しそうでした。

訓練生は、この後、ホテルやレストランで実際に働

きながら研修を行う実地訓練を4週間行います。実地訓練の成績が良ければそのまま就職できる訓練生もいますが、そのためには大変な努力を続けることが求められます。

訓練生の中には、このような厳しい職業訓練の全課程を修了し、ホテルに住み込みで給仕の仕事をするようになった元ストリートチルドレンもいます。職業訓練を2年前に開始した当初は30%程度だった就職率も、昨年には60%まで改善しました。これからも、若者たちが社会の一員として自立できることを目指し、JCCPは支援を続けていきます。

\*この事業は、JCCP会員や寄付者の皆様からのご支援と、独立行政法人 国際協力機構（JICA）からの委託、および公益財団法人日本国際協力財団（JICF）からの助成により実施しています。



担当に別れて、野菜やフルーツを切る訓練生。



熱いパンケーキを素手でひっくり返すのは難しい。炎天下の中、みんな汗びっしょり。



調理実習で完成した料理。なかなかおいしいそう。

## IPSTC：PKO訓練センター支援の第2フェーズが始動

JCCPは2010年2月よりソマリア、ダルフルなど東アフリカ地域の平和維持活動（PKO）に従事するアフリカの軍人、警察官、文民の育成のため、ケニアの国際平和支援訓練センター（IPSTC）で行う研修カリキュラムの立案、教材作成、講師派遣を行っています。JCCPが立案する訓練カリキュラムは、(1) 治安部門改革 (2) 子どもや女性の人権 (3) 災害対策です。

2012年1月から、IPSTC支援事業の第2フェーズが始まりました。今フェーズでは新たに、昨年独立した南スーダンの警察訓練が取り入れられています。

2012年2月末から3月にかけて、専門家10名が集まり、南スーダンの実情とニーズに合った訓練コースのカリキュラムを作るため議論を重ねま

した。アフリカ地域では災害担当の省庁がなかったり、軍や警察なども研修を一切受けていない国が大多数です。今後は日本が支援実績のある災害対策分野で、日本の専門家を派遣する形での貢献を進めていきます。

## 首都ナイロビのマザレ・スラムでコミュニティ平和構築事業が開始

JCCPは2012年3月よりナイロビのマザレ・スラムにおいて、「コミュニティ平和構築」事業を開始しました。コミュニティ平和構築とは、紛争に発展する危険のある問題や争いなどの不安定要素を、地域住民が主体となって解決する仕組みをつくることです。地域のリーダーや現地CBO（Community-Based Organization、自助グループ）をはじめとする住民が、行政機関と協力し自らの地域が抱える争いや問題に対処する能力を高め、紛争や暴力に発展しにくい社会を築くことを目的としています。

具体的には、次のような活動と仕組み作りを通じてコミュニティ平和構築を支援します。

### ◆ 早期警戒ネットワーク作り

住民間にひそむ争いや問題の火種を見つけ、その解消に取り組む人材を育成するための研修を行います。また、万が一住民レベルで解決できない問題が発生した場合、対応できる団体へ連絡をとる仕組みを強化します。こうして早期に問題を発見し警報を鳴らし、対応できるネットワークをコミュ

ニティに築きます。

### ◆ 住民と警察の協力関係作り

スラムでは、警察への不信感が強く、犯罪や争いの予防・解決に向けて警察と住民が協力し合う体制がありません。そのため、まず住民・地元学校・警察の関係改善を行い、主に子供たちに関する犯罪や高リスク地域に関する情報共有・対応協議をスムーズにする体制作りを支援します。

### ◆ 犯罪・暴力の被害者に対する心のケア

JCCPは、スラムの若者を中心とするコミュニティ・カウンセラーを育成し、暴動や暴力の被害者への心のケアや、謝罪の気持ちを持つ加害者とその被害者との和解の仲介を行います。

暴力や犯罪の連鎖を断ち切るためには、被害者が弱者となり続ける状態を変える必要があります。JCCPは、コミュニティ・カウンセラーに対して心のケアに必要なスキルの追加トレーニングを行い、被害者となった住民を住民同士でサポートできる体制作りを支援します。

また、将来の暴力の予防のため、まだ被害に遭っていないものの犯罪や家庭内暴力のリスクにさらされている子どもたちに対し、チャイルド・セラピールームを提供します。コミュニティ・カウンセラーが子どもたちへカウンセリングを行い、家外で相談できる場を提供し犯罪リスクの早期発見と対応を目指します。

### ◆ 犯罪・暴力を防ぐ環境作り

劣悪な生活環境が犯罪を誘発する温床となることから、生活環境を清潔で安全なものへと改善し犯罪を防止する支援を行います。共同清掃活動を通じて、民族を超えた住民間のコミュニケーションの機会を増やし共同体意識を育てます。また、スラムで犯罪の被害者になりやすい女性の視点から、どこでどのような犯罪が発生しやすいかを調査分析し、必要に応じて行政機関やほかの団体が対応できるよう提言します。

\*この事業は、JCCP会員や寄付者の皆様からのご支援と、外務省（日本NGO連携無償資金協力）からの助成により実施しています。

## トピックス

## TOPICS

### 第21回通常総会を開催

2012年3月15日に開催された第21回通常総会には、正会員総数45名のうち、本人出席7名、書面評決による出席者15名、評決委任による出席者6名の計28名の出席をいただきました。本総会では平成24年度（2012年度）事業計画と収支予算が承認されました。また、新役員としてオーセンティックワークス株式会社代表取締役の中土井僚氏およびユイット株式会社代表取締役の宮下幸子氏の2名が新理事に就任しました。

### 総会開催のお知らせ

第22回通常総会は6月28日の開催を予定しています。議決権を有する正会員（賛助会員・支持会員）の皆様には別途6月上旬にご案内をお送りいたします。

### 活動予算書（2012年度）

（単位：千円）

科目	予算額
I 経常収益計①	148,102
1. 会費	3,005
2. 寄附金	3,455
3. 助成金等	139,552
4. 事業収益	2,090
5. その他収益	0
II 経常費用②	148,102
1. 事業費	140,922
2. 管理費	7,180
当期経常増減額③=①-②	0
III 経常外収益④	0
IV 経常外費用⑤	
当期正味財産増減額⑥=③+④-⑤	0
前期繰越正味財産額⑦	15,230
次期繰越正味財産額⑧=⑥+⑦	15,230

# ご支援へのお礼

◆毎日新聞社と毎日新聞東京社会事業団で実施している「海外難民救済キャンペーン」により、読者の方々へ募金を呼びかけていただきました。

集まった難民救済基金から20万円をJCCPの南スーダン事業のためにご寄付頂きました。

いつも温かいご支援有り難うございます。この紙面を借りまして改めて厚く御礼申し上げます。

## JCCPのNPO認証10周年のご挨拶

JCCPが東京都にNPOとして認証された2002年2月28日から、10年が経ちました。

私がJCCPの事務局長に就任したのが2007年4月なので、JCCPのNPO人生(?)の半分を一緒に歩んだことになります。

私が参加するまでのJCCPは、2002年から2006年の間に、激動の月日を経験しました。2006年時点で経営難で在外事務所もほぼすべて閉鎖され、職員もほぼ全員いなくなった状態で一度活動を停止しようかと検討されていた時期に、堂之脇理事長から事務局長として組織再建を依頼された日のことは今でも鮮明に覚えています。当時国連PKOの職員として西アフリカのコートジボワールにいた私の人生にとっても、大きな転換点

となりました。

結果、今までのどの職場よりも長く勤めることになりました。マイナスからの組織再建の最初の2～3年間はとにかく必死で、あっという間に時が過ぎました。ソマリア、南スーダン、ケニア、バルカン地域での活動を実施し、現場での活動をまかせられる心強い職員たちが参加してくれるようになりました。

事務局長に就任する前に、ある援助団体の幹部の方に、「再建には時間がかかると覚悟して焦らないほうが良いよ」とアドバイス頂きました。5年間を振り返ると、もっと効率良くできたであろうことも、まだ組織として改善しなければならない点も多々あります。大きく変わりつつある国際情勢のなか、これからの5年間は、組織にとっても新たな体制

が求められ、新たなフェーズとなるでしょう。

JCCPは、これからも、紛争や争いが再発しない国や地域が増えること、そして紛争地に生きる人々が生き方の選択肢を選びとっていける社会を目指していきます。そのために、ニーズがあるけれど解決の担い手がない地域・分野で、求められる活動を実施できる団体として、引き続き努力していきたいと思えます。

今後ともよろしくお願ひします。

事務局長 瀬谷ルミ子

## ご支援のお願い

### 会員案内

JCCPは、紛争予防・平和構築活動の重要性に賛同し、JCCPの活動に参加いただける会員を随時募集しております。

### ★入会方法

入会申込書に必要事項をご記入の上、郵送、FAXまたはE-mailにてお申し込みください。入会申込書はJCCPのホームページ(トップページ→支援する→会員になる)からダウンロードできます。



### 寄付のお願い

JCCPは、海外事業・国内事業を支援していただける方からの寄付金を随時受け付けております。

### ★郵便振替で寄付をする

郵便振替口座：00100-8-425569  
加入者名：  
特定非営利活動法人 日本紛争予防センター  
トクヒ)ニホンフソウヨボウセンター

### ★銀行口座から寄付をする

三菱東京UFJ銀行(普) 1111380  
名義人：  
特定非営利活動法人 日本紛争予防センター  
トクヒ)ニホンフソウヨボウセンター

(銀行からのお振込の場合、JCCPにはカタカナ表記のお名前のみ通知されますので、領収書が必要な方は、お手数ですがJCCPまでご連絡ください)

### ★オンラインで寄付をする

JCCPのHP (<http://www.jccp.gr.jp>) のトップページから、「支援する」のページを選択していただき、オンラインで募金いただけます。

### 書き損じハガキ

JCCPでは、年賀状や暑中見舞いなどの書き損じハガキを、切手や現金に交換し、現地の支援に役立てています。

### 郵送先

〒112-0014  
東京都文京区関口1-35-20 藤田ビル3F  
日本紛争予防センター 書き損じハガキ係

### 例えば…

ハガキ15枚(約500円)で、ケニアの暴動でトラウマを負った子どもや女性一人が心のケアを1回受けることができます。

ハガキ30枚(約1000円)なら、紛争で親を亡くした南スーダンの子ども一人が、犯罪や暴力に巻き込まれないように守ることができます。

※活動のご報告をさせていただきますので、差し支えなければお名前とご連絡先を添えてお送りください。

詳しくはお電話かメールでお問い合わせいただくか、JCCPのホームページをご覧ください。 [www.jccp.gr.jp](http://www.jccp.gr.jp)

## JCCPの事業一覧 (2012年5月現在)

※国ごとに記載しています。

<p>事業名 : 国際平和支援研修センター(IPSTC)への平和支援研修及び組織強化事業                  事業地 : ケニア                  期間 : 2012年1月～継続中(第2フェーズ)                  助成 : 国連開発計画(UNDP)</p>	<p>事業名 : 南スーダン・ジュバ市内におけるストリートチルドレンを支援する現地NGO及び現地政府の能力強化及びネットワーク強化事業                  事業地 : 南スーダン                  期間 : 2011年12月～継続中                  助成 : 独立行政法人 国際協力機構(JICA)</p>
<p>事業名 : 選挙暴動後のスラムにおけるコミュニティ平和構築・治安改善プロジェクト                  事業地 : ケニア                  期間 : 2012年3月～継続中                  助成 : 外務省・日本NGO連携無償資金協力</p>	<p>事業名 : ソマリア共和国プントランドにおける干ばつ被災者・国内避難民への生活支援および啓発・心理的社会的サポート事業                  事業地 : ソマリア                  期間 : 2012年2月～継続中                  助成 : 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム(JPF)</p>
<p>事業名 : 民兵・犯罪予備軍の若者の社会復帰プロジェクト(Youth at Risk)                  事業地 : ソマリア                  期間 : 2011年8月～継続中                  助成 : 国連開発計画(UNDP)</p>	<p>事業名 : ストリートチルドレンに対するシェルター支援と心理ケア・啓発事業                  事業地 : 南スーダン                  期間 : 2012年4月～継続中                  助成 : 公益財団法人日本国際協力財団(JICF)</p>

## 新任スタッフからのご挨拶

在南スーダン代表事務所 プロジェクト調整員  
 真嶋 忍(ましましのぶ)

初めまして、南スーダン代表事務所調整員の真嶋忍です。この4月より首都ジュバにて、路上に生きる子どもたちに向けた啓発活動と、若者たちへの職業訓練ならびに就職斡旋活動に従事しています。これまではアジアでの支援活動を続けてきましたが、アフリカの平和的発展にかかわりたくJCCPの一員として着任するに至りました。今後の発展が期待される新しい国と、歩みを共にしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

東京本部 総務  
 種市 雅彦(たねいちまさひこ)

4月よりJCCPで初めてのNGO経験をさせて頂くことになりました。個人のリスク管理やセキュリティの確保に国家の限界が見えてきた現代において、NGO・NPOの役割は大きくなるばかりと思います。JCCPのミッションの遂行に少しでも役に立つ総務のあり方を考えていきたいと思っております。ご指導よろしく申し上げます。

## JCCPカレンダー (2012年1～5月)

開催日	主催/イベント/放送局	テーマ/番組名	発売日	掲載メディア	紹介コーナー/記事タイトル
1月17日	群馬県教育委員会	国際社会に貢献できる生徒をどのように育成するか?	1月28日	読売新聞夕刊	ラウンジ
1月23日	(株)ベネッセコーポレーション	行動で変える 私たちの未来	2月17日	北海道新聞朝刊	各自核論 紛争予防への貢献
1月28日	山形大学	JCCPのこれまでの活動と工学部に求められる国際貢献	3月5日	週刊エコノミスト (2012年3月13日号)	問答有用
2月11日	よこはま国際フォーラム2012	武器を持つ手を仕事を手に 一戦後世代の日本の平和構築支援一	3月20日	毎日新聞朝刊	海外難民救済キャンペーン ゼロからの出発 南スーダンから あの人に迫る
2月25日	平安女学院高等学校	紛争地域の現状と解決に向けての取り組み☆	3月23日	東京新聞夕刊	
3月15日	—	第21回JCCP通常総会	4月18日	Dream Navi(6月号)	夢のかなえかたを大人に聞いてみました
3月26日	ラジオJ-WAVE (～29日)	ウィダーPOWER YOUR MORNING	4月29日	毎日新聞朝刊	若手論客が語る「これからの日本」
3月31日	NHK総合	ニッポンのジレンマ	5月7日	SYNODOS JOURNAL	紛争地の人々へ、生きる選択肢を
5月25日	(特活)共生のネットワーク	職業は武装解除 一私たちの人生に限界はない	5月10日	熊本日日新聞朝刊	夜明けの国から 南北スーダンルポ

(講演者・出演者は瀬谷ルミ子事務局長。ただし、☆は末藤千翔職員。)

## 編集後記

保育園に通う姪が照準機の付いたファーマス(FAMAS:自動小銃)の写真を「トーマス」と一言。彼女にはファーマスの照準機が「機関車トーマス」に見えたようです。紛争地の子どもたちはファーマスの照準機をみて「機関車トーマス」という発想をするだろうか、と自問しました。日本の子どもには武器さえ絵本の世界のキャラクターにみえます。紛争から遠い世界に暮らしているため、また「選択肢」が多いため、いろいろなことを考えさせられた姪の一言でした。(内藤)



認定NPO法人 日本紛争予防センター  
 〒112-0014 東京都文京区関口1-35-20 藤田ビル3F  
 TEL: 03-5155-2142 FAX: 03-5155-2143  
 E-mail: contact@jccp.gr.jp  
 URL: www.jccp.gr.jp

発行日 2012年5月 25日  
 発行人 堂之脇光朗  
 編集人 瀬谷ルミ子  
 Volume 8 Issue 1

顧問 近衛忠輝 日本赤十字社社長  
 明石康 元国連事務次長  
 理事長 堂之脇光朗 元外務省大使  
 理事 小川和久 (特活)危機管理総合研究所所長  
 入山映 サイバー大学客員教授  
 植村高雄 (特活)CULLカリタスカウンセリング学会会長  
 瀬谷ルミ子 (特活)日本紛争予防センター事務局長  
 永井恒男 (株)野村総合研究所コンサルティング事業本部  
 中土井僚 オーセンティックワークス(株)代表取締役  
 宮下幸子 ユイット(株)代表取締役  
 監事 柴田秀孝 (株)エムアンドアール顧問